

## 第2回森づくりトークインの開催の概要版

### 開催の概要

1月26日(土)13:30~	森づくりトークイン村山	於:山形市 あこや会館	参加者:32名(16団体)】
1月27日(日)13:30~	森づくりトークイン置賜	於:米沢市 アクティ米沢	参加者:47名(28団体)】
2月2日(土)13:30~	森づくりトークイン庄内	於:庄内町 響ホール	参加者:37名(13団体)】
2月3日(日)13:00~	森づくりトークインもがみ	於:新庄市 ゆめりあ	参加者:91名(29団体)】
(最上地区は午前中に森づくり報告会を併催しました)			トータル参加者 207名(86団体)

### 1 開催の目的

森林ボランティアや県民による継続した森づくりを支援する「みどり環境公募事業」の説明会を実施するとともに、今年度「公募事業」を活用して森づくり活動を行ったボランティア団体等と、活動の成果や課題について自由な意見交換を行い、来年度の森づくり活動の積極的な事業展開につなげる。

### 2 主催(共催)

やまがた公益の森づくり支援センター  
山形県みどり自然課  
各総合支庁森林整備課森づくり推進室

### 3 トークインの内容

第1部 「やまがた緑環境憲章」「シンボルマーク」の披露および説明  
平成20年度みどり環境公募事業の募集について

第2部 ボランティア団体へのアンケート集計結果について  
森づくりに関する意見交換会(自由討論会)  
まとめ

### 4 配布資料

やまがた公益の森づくり支援センターの概要(資料1)  
アンケート集計結果(資料2)  
森づくりや森林環境学習活動を応援します(資料3)  
(財)山形県みどり推進機構について(資料4)



森づくりシンボルマーク

公募事業等に関する質疑等

- ・ 宿泊を伴う活動で、宿泊費や食料費を申請することはできるのか  
     宿泊費・食料費としてではなく作業に必要な旅費として支給のため、申請は可能
- ・ 高額な備品とはどこまでの範囲なのか（デジカメのメモリとか該当するのか）  
     メモリの容量により高額になるので、良識の範囲で消耗品費扱いにする
- ・ チェーンソーの刃は消耗品として該当するのか 消耗品費として扱う
- ・ あずま屋の屋根の部分などの原材料費込みの支援は可能なのか  
     ハードの部分は市町村との連携などで行ってほしい
- ・ 別紙3の刈払機の借り上げ料が今年の単価と異なるのは（19年：2千円 20年：3千円）  
     刃の消耗を加えている

森づくりに関する意見交換

（チーム森と人をつなげ隊）

- ・ 19年度の事業は県民への周知期間が少なかったということが反省点
- ・ 連携した事業展開をしているが、お互い離れているので、交流以上のことは出来なかった
- ・ 将来は自分達が弱いところを補える関係の構築が必要

（エコトーン）

- ・ 参加者はすべて女性、西川町の4団体と連携して、全県的な活動（エコロジカルなネットワークづくり）に取り組んでいる。
- ・ 場所は特に限定していないが、今年度は森林整備として、米沢市の「森の仲間たち」と連携して事業を行なった。

（楯山愛好会）

- ・ オオムラサキの保全活動（蝶が生息できる森づくり）を山梨県と交流しながら行なっている。
- ・ 県内で同じような活動を行っている団体と連携できればいいと思う

（緑を育てる女性の会）

- ・ 県内に会員がいるが、県内全域の連携は、会員が高齢化していることもあり難しい

（トラック協会）

- ・ 会員との連携により事業を行なっているが、今年は支援センターの紹介で東北ねじ組合と連携した活動も行なった
- ・ 今後植えた木をどのように維持管理していくのかという問題がある
- ・ また、チーム森の人の活動を参考に「炭焼き体験」などを行いたいと考えている

（国土防災） 企業の森づくり

- ・ 南陽の熊野神社の周辺で、地域の財産区所有林を林業公社と連携して管理している
- ・ 全国の社員に参加を募集しており、遠くは徳島県や静岡県からも参加がある
- ・ 今後は、キノコ栽培に興味をある方を公募して、森づくりを推進したいと考えている
- ・ このように、継続・連携するためには、活動の情報をなるべく外に出すことが必要と考える

（山形県林業公社）

- ・ 企業の森づくりということでフィールドを提供して企業の森づくり参加の立上げを支援している

- ・ボランティア団体（活動に参加している89団体）の活動の内容が分かるように一覧表に整理して県民に提示してほしい

（森林管理署）

- ・フィールドの関係では、国有林は協力が可能である
- ・成沢GFや蔵王緑の騎士団は国有林をフィールドに活動を展開している
- ・また、国有林をフィールドにした「やまがた森林ボランティア連絡協議会」を結成しており、活動の連携も可能である

（成沢グリーンフィールド協力隊）

- ・国有林をフィールドに地域との連携で活動を展開している。会員も地域限定である
- ・このような点的な活動ではあるが、点から線へ、そして面的な広がりを期待している
- ・そのような意味では、活動を継続して行なうため、後継者の育つ環境づくりが大切

（イバラトミヨ保全の会）

- ・東根の空港の西側で活動している。昔は奥羽山脈から松林が連なっていた。エサのエビは森から流れる清らかな水がないとできないと考えている

（山岳会等）

- ・登山道の補修をボランティアで実施したいと考えている

（東海大山形高校）

- ・選択授業のテーマ「自然」の分野で、蔵王緑の騎士団と連携して間伐体験などを行なっている。このような活動は異年齢（親や一般の方）との交流の一環として取組んでいる。

山形・おきたまNPOセンター山口充夫さんの講評

- ・公募事業は、将来的には10分の10の補助率も見直すことが必要
- ・申請の面では、申請書の書き方のテクニックを学ぶ必要がある。何のために事業を行なうのか、ボランティア団体もプレゼンの仕方を学ぶ必要がある。
- ・活動の面では、NPOの活動を推進するのが目的であって、何も無理な活動をする必要はないのではないか。
- ・今足りないのは、活動をマネジメントする場（学びの場）が少ないこと、支援センターはこのような機械を各団体に提供することが必要
- ・連携の面では、地域との連携を図りながら点から面へという方向性でいいと思う
- ・支援センターの活動については、センターの白壁さんが全てを行なっていくのではなく、支援センターの各団体が連携した取り組みが必要



#### 公募事業に関する質疑等

- ・ (市町村との協働の話を受け)薬剤費などは町でやるので公募事業では買えないのか？  
協働は検討して欲しいということで絶対という話ではない。場合による。
- ・ 提出書類のうち、状況報告書は書くのが大変だが簡素化ならないか？  
ご理解ください。
- ・ 国立公園内の湿地保全活動は対象になるか？リフト代もみられるか？  
法的な管理者がいるところは対象外だが、環境学習等のフィールドとしてはよい。この場合も管理者と調整が必要かと思われる。これらがクリアされれば、リフト代も対象になる。
- ・ 憲章は行動指針と思うが、子どもたちに伝える上で県教委あたりとの連携は？  
環境教育の窓口である環境企画課の会議を通じ、話をしている。
- ・ ボランティア団体と市町村の連携はまれ。自治体担当者への声かけが必要。交付金の動きは？  
市町村の予算編成時期が始まる頃に合わせて、連携協力依頼の文書を出している。
- ・ 米沢市では、今年の交付金事業の成果と来年度の予定などはどうなっているか？市民の声など届いているか？市民に情報発信が必要。  
(米沢市担当者)間伐材を活用した施設の内装木質化とペレットストーブ設置など行った。来年度も同様の内容を予定。
- ・ マツクイ、ナラ枯れ、鳥獣の協議会立ち上がったが、この関係の補助金はなくなったのか。  
(置賜総合支庁)公募事業に代わったものです。

#### 森づくりに関する意見交換

##### (不伐の森に親しむ会)

- ・ ボランティア団体の悩みは、資金の確保、参加者の確保で、今後も継続した活動ができるか悩みである。
- ・ 子どもはその背後の親で人数的には2倍である。憲章をもとに県教委に向かえるか。教育活動で森の価値を伝えることは大事。
- ・ ボランティア団体は点の活動であり、面は不可能である。

##### (林業就業希望者)

- ・ 山で生計を営める手法の検討が必要。産業として林業が回るしくみが必要。

##### (佐藤主幹)

- ・ 地元のを地元で、支庁単位で回せるようなしくみが必要。

##### (梅津補佐)

- ・ 庄内のクロマツペレットの例、

##### (東北ホモボード)

- ・ 材木の端材を合板している事業者の例(置賜地区の残材は100%利用)など優良事例の話。

##### (源流の森インタープリテーション協会)

- ・ 商品開発のアイデアにも税を使えないか？

( 豪土山の会 )

- ・ ( 高畠の分収林関係で ) 同じ県で環境の仕事をしているのに、せつかく育てたブナ林の伐採許可を出すのは理解できない。

山形・おきたまNPOセンター 山口さんの講評

- ・ 団体は行政の窓口をたたき、相談するとよい。
- ・ 税の公募要綱中、自己資金についても問うべき。自己資金あつての補助である。
- ・ 状況報告書の記載が大変という話だが、税金であるので当然必要。団体の活動報告書には活動内容だけでなく、課題、成果、感想等の記述もあればよい。
- ・ 団体独自の報告会をするなどの取組み(発信)も大事。
- ・ 団体は、何のためにやるのか、これをするとどうなるのか、という組み立てが必要。
- ・ 行政との協働については、役割分担をしっかりとすればよい。行政のPR力など活用。
- ・ この分野に関して、マネージメント(経営、組み立て方、金、人・・・)の学びの場をつくってほしい。NPOでは常時やっている。
- ・ 公募事業の内容は、県民会議でしっかり審査してほしい。
- ・

武者幸恵さんアコーディオン演奏会



公募事業に関する質疑等

(金峰倶楽部)

- ・ 全体計画があり継続性のあるものについては、その事業として採択し、いちいち同じような書類を毎年提出しなくてもいいように出来ないのか。

確かに継続性は大切であり、審査の段階でも重要な審査項目に「継続性」を入れている。ただ、年度をまたぐ事業の採択となるとなかなか制度上難しく、事業の予算は単年度ごとであるため募集も年度ごとにならざるを得ないため、どうかご理解願いたい。また、全体計画があっても、年度ごとの活動というのはその年毎にやってみて内容が変わるものもある(植栽 下刈り 補植など)ため、面倒ではあるが年度ごとの具体的な活動計画をその都度提出していただきたい。

(砂丘地砂防林環境整備推進協議会)

- ・ 刈払機の「刃」は補助対象とならないのか。機械を借りた人に刃代くらいは支払いたいのだが。替刃代であれば資材費等で対応できる。また、機会を提供していただいた方には、使用料として、例えば刈払い機1日3千円、といった支払方法も可能である。

(一般参加者)

- ・ 自治会の部落有林でボランティアによる活動を一般参加者も募って行っているが、応募できるか。また応募するとすれば代表者になるのか、担当者か。

是非応募していただきたい。応募者は団体になります。なお、詳細は庄内総合支庁にご相談ください。

(心のふるさと新井田川の会)

- ・ 新井田川で年4, 5回の草刈と堤防の桜の木の手入れをしている。去年は最上川フォーラムから助成してもらった。いわゆる河川アダプト的なものも該当になるのか。

率直に申し上げて、河川アダプトのみでは優先順位がかなり低くなってしまおうと思われる。項目として「自然環境の保全活動」があるため、一概にダメというわけではないが、河川敷での草刈や樹木の手入れといったものは、本来管理者である国や県などの業務であると考えられるため、子ども達への環境学習であったり、そこに棲む希少生物の保全活動などをプラスした方が採択になる可能性は高くなると思う。詳細は庄内総合支庁まで。(相談して応募します、とのこと)

森づくりに関する意見交換

(眺海の森案内人)

活動のテーマは、いかに子ども達をフィールドで楽しく遊ばせるか、興味を持ってもらうか。また、いつもキレイに林内は整備されているため、「場所によっては放置されているところもあった方がいい」と指定管理者である庄内森林保全協会に提案しても聞き入れてもらえない。管理者との意見の相違がある。

(一方で、参加者からは「眺海の森はいつもきれいで素晴らしい」「あの整備された眺海の森だから人が集まるのではないか」といった意見も出された)

(金峰倶楽部)

やはり高齢化は大きな問題である。あと活動して怪我をした時の対応に課題がある。活動が少年自然の家で行っているため、参加者が怪我をした場合、どちらで対応するのかなどで困ることが

ある。

(出羽庄内森林組合)

我々は林業のプロ、専門家である。最近では環境教育への協力も惜しまずやっている。技術面の提供は可能なので、いつでもご相談いただきたい。

(猛禽類調査会)

後継者問題は大きい。もっと子ども達への観察会などを増やしていきたい。

(砂丘地砂防林環境整備推進協議会)

松くい虫防除について、県や町には大変感謝している。ただ、そこに住む人みんなが海岸林の保全に対して意識が高いのかはわからないので、もっと次世代につなげる教育を目的を持ってやっていきたい。



## 森づくりトークインもがみ 意見等概要

### 公募事業等に関する質疑等

応募は、市町村を通さなくても良いか。

提出は真っ直ぐ県（総合支庁森林整備課）で良い。

交付金事業との連携を優先していくこともあり、事前に市町村との打合せをお願いする。

事業計画は複数年で、採択は単年度とのことだが、事業の継続性（連続性）の点から複数年の採択はしてもらえないのか。

また、補助金手続きに必要な事務経費は、事業費に計上できないのか。

予算のしくみとして単年度ごとの採択となる。が、森づくり活動は継続の意味から、翌年以降の事業計画の記載を重視したい。

事務手間は理解できるが、理解と協力をお願いする。

なお、事務経費は、事業費ではみれないので、自己負担でお願いする。



## 森づくりに関する意見交換（各団体の課題の整理）

### （ブナの実21）

- ・ 活動と教育との関わりが多いが、学校の先生方や地域との話し合いが足りない。今後、市を通じて話し合いをしていきたい。
- ・ 現在の学習指導要領の中で、応用面や活用面が足りない。
- ・ 「団体 - 地域 - 学校」の3者の話し合いや連携が大事。
- ・ 子ども達に、小学校に入る前に自主性を持たせる必要がある。

### （角川里の自然環境学校）

- ・ 今年度はハード的な活動が大半だった。
- ・ 本当は小中学生もハード的な活動に関わってほしいが、実際の活動はソフト(体験)のみ。
- ・ 活動は土日だが、スポ少などの学校行事と重なるため、参加者が少ない。
- ・ 宮城県や芸工大など、地区外の参加者が多い。

### （鮭川村自然保護委員会）

- ・ 下刈り等の活動資金が不足。
- ・ ボランティアだけでは、ものが進まない。
- ・ 希少生物を保全するために、その土地(民地)を購入したい。
- ・ 地元の方の理解と協力が必要。いかに、地元の方に参加してもらうか。県外ナンバーの車が来るが、地元の方が何故来ているのか理解していない。地元だけでなく、村、最上地域全体の理解が必要。

### （遊学の森案内人会）

- ・ ビオトープを作り調査したことで、希少生物が発見された。今後どう保全するかが課題。
- ・ 県有地でもあることから、広く県民にも広めたい。
- ・ 広報も必要である。

### （火打岳を見上げる会）

- ・ 登山道の整備、保全是、人的な作業では困難であり、重機による整備への支援も必要。
- ・ 公園化を目指したい。(自然公園や国有林などの制限はかかっていない。)

### （真室川町野々村地区会）

- ・ 一地区の自治会として活動し、ため池の自然環境や集落を守る水環境、森林の理解が狙い。
- ・ 体験的な活動から始めたが、地域の全体像(里山やため池の役割など)から入る必要もあったのではないかと。
- ・ 地域の老人クラブの方をもっと活用すれば良かった。

### （甕山探求会）

- ・ 森づくりに、学校、家庭、地域住民の連携が必要であり、特に家族ぐるみの取り組みを大切にしてきた。
- ・ 森づくりのベテランによる子ども達への指導が必要であり、特殊な作業を行う会員(プロ)に対して公募事業で日当が支払えないことが悩みである。
- ・ 学校の統廃合により、学校ぐるみの取り組みがやりにくくなった。

## 意見のまとめ(白壁)

- ・ 地域での取り組み(地域ぐるみ)
- ・ 地域のお年寄りパワー
- ・ 地域の理解と協力
- ・ 地域の子どもの日程
- ・ 学校と地域の話し合い

## 沼野慈氏(全県を対象にしたNPOネットワーク組織を運営)のコメント

- ・ 地域を超えて、団体が出会うことで、新しい打開策が見えたり、殻が破れることもあるし、ヒントも得られる。
- ・ 各団体の活動は森づくりのみならず、地域活動であり、地域の活性化にも役立っている。



- ・ 当組織では、NPO化や資金援助の相談、マネジメントなどを行っており、新庄にも窓口があるので、是非相談してほしい。

#### （広報の方法について）

- ・ 会員へのチラシ送付。
- ・ 市町村広報の活用（ただし、締切に間に合わせる必要がある）。
- ・ 活動エリアの学校を訪問し、「学校連絡会」のような場を設定する。
- ・ 広報誌を自治会を通じて学区内の全戸に配布する。
- ・ 自分たちから、積極的に地域や学校サイドに入っていくことが大事。
- ・ 自分たちでは解っているつもりだが、本当は解っていない事もある。また、学校と一般人（地域住民）の認識が違いすぎるのではないか。
- ・ 地域（地元）住民が興味がないことから、活動の理解が得にくい。チラシも見ない、話も聞いてくれない、特に若い世代は見向きもしてくれない。時間をかけて、森づくりの取り組みをする必要がある。
- ・ 祖父母（じーちゃんばーちゃん）に昔の話をしてもらう必要もあるのではないか。

#### （岸金山町森林組合長）地域における森林組合の活動について

- ・ 「地域の森をどうするのか」を、引っ張っていくのが森林組合の役目。
- ・ 森づくりは、長い目で育てていくべきだが、木材価格が安いこともあり、手入れが遅れているとともに、どこに自分の山があるのかすら解らない状況である。
- ・ やまがた緑環境税を活用して、整備した山を所有者に見てもらい、もう一度山について考え直してもらいたい。
- ・ 森に親しむ心（自然観察など）により、山を見つめてもらい、ひいては、森林づくりにつながるのではないか。

#### （学校との関わり・連携について）

- ・ 放課後子ども教室などもあり、学校とのつながりを大事にしたい。
- ・ 広報では、日程を詳細に伝えておく必要がある。
- ・ 学校へのアプローチ（ルート）については、知人の先生や長期に赴任している先生を頼ることが良い。
- ・ 学校と地域との関わりについては難しいこともあるが、地域住民からの活動報告や交流があることは非常に良いことである。

#### （活動していく上での課題）

- ・ 活動の中心となっている人の平均年齢が高いことから活動の継続性が保てるのかが心配。
- ・ 活動の対象者が、子ども達であり、父親世代が抜けていることから、「親子での参加」を原則として活動していくことが必要である。また、父親世代でも、子どもが高校生以上になると、時間がもてるようになる。
- ・ 何十年もの活動を続けているからこそ、今も活動ができる。地域を巻き込む、子ども達を巻き込むためには、今までやってきたことを続けていくことが大事である。それができない地域などないのではないか。

#### （森林ボランティアの役割と継続について）

- ・ 活動をすることで、夢がどんどん広がっていく。子ども達にも活動をどんどん行ってもらい、夢や希望を持ってもらいたい。ボランティア活動は、夢を広げる役割がある。
- ・ 地区で1軒だけになった炭焼きやピザ窯での活動を通じて、今後も伝えていきたい。
- ・ ビデオを撮ることで、村の子ども達に、活動内容や活動の大切さを見せていきたい。
- ・ 民間の企業団体から環境保全に活動資金を支援してもらうことも必要である。
- ・ 活動報告会などの行事には、活動団体だけでなく、本来は一般の方にこそ参加してもらいたい。次回以降は、じーちゃんばーちゃんや親子世代をもっと参加させる必要がある。

- ・ 子ども達と一緒に整備活動を行っていきたい。
- ・ 活動内容で、専門的な部分は専門家に任せればよい。
- ・ 集落の資源マップ作りを地域で行うことで、世代間の空白が埋まっていくのではないか。
- ・ 学校が合併したことで、これまでの地元との関わりが全くなくなってしまった。  
「学校の森」、炭窯、植栽、老人クラブの「花いっぱい運動」など、これまで行っていた活動について、今後も地区の子ども達に参加してもらい、地域の取り組みにしていきたい。
- ・ 人が動くためには、人の熱意が一番大事である。
- ・ 県民参加の森づくりの「呼び水」としての税事業を、今後も継続して行ってほしい。
- ・ 「人の営み」を大事にすべき。  
団体間の交流を行うことで、腹を割って話ができるようになる。
- ・ 活動は、親子を巻き込み、一人一組でも集まってくれば良いという広い気持ちで行ってほしい。  
大きなものを目指すのではなく、小さなこと、できることから始めよう。

(まとめとして)

- ・ 他人の畑の中で、自分をどう伝えていくのかは難しい。自分たちの考えが当たり前でないと、まず思うこと。
- ・ 「地域おこし」にどう上手に「緑環境税」を活用するのかを考えること。
- ・ 自分たちの身の丈に合った活動をする事。
- ・ 活動を続けること。地道だが、一世代分である20～30年活動を続けることで、その子ども達が大人になって帰ってくるはずである。
- ・ 子どもが変われば大人が変わる。(大人はすぐには変わらない)
- ・ まずは、小さな一歩から始めよう。

新庄吹奏楽団の演奏



池田敏美さんバイオリン演奏会

